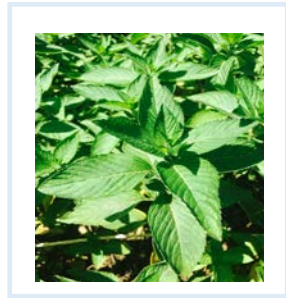
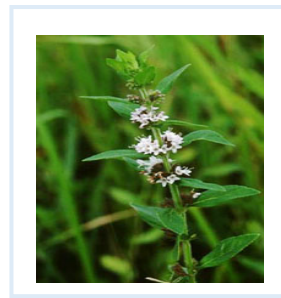


—ハッカ—



地上部 (東京理科大学植物園)



花 (公益社団法人日本薬学会)

学名： *Mentha arvensis* L. var. *piperascens* Malinv.

科名： シソ科

属名： ハッカ属

形態： 東アジア各地のやや湿った土地に野生，栽培の多年草。全草に芳香。茎は方形で直立し，細毛を密生。葉は対生し，短柄。葉身は長楕円形で，鋭頭，きょ歯縁，夏～秋に上部の葉腋に淡紫色の小唇形花を多数輪生。

成分： 精油 (*l*-menthol, *l*-menthone, isomenthone, pulegone, camphene, limonene, piperitone など) モノテルペノイド配糖体 (*l*-mentholglucoside) など

使用部位： 地上部

用途： 芳香性健胃，駆風薬，矯味矯臭薬。漢方では，解熱，発汗，健胃などに用いる。
l-menthol 製造原料。

製剤： ㊟ハッカ水，ハッカ油，*l*-menthol

㊟柴胡清肝湯，防風通聖散，加味逍遥散など

同類植物： セイヨウハッカ *Mentha piperita* L. ミドリハッカ *M. viridis* L.



セイヨウハッカは、ミドリハッカとアクアティカハッカとの雑種と考えられ，欧米各国の薬局方に収載される。ミドリハッカは中央ヨーロッパ原産で，チューインガムなどの香料として多量に消費されている。ハッカの味がセイヨウハッカよりも劣るのは，精油に苦み成分である piperitone, pulegone などが含まれているためとされている。

参考 最新薬用植物学(廣川書店)，生薬学第8版(廣川書店)，
くらしの薬草と漢方薬(新日本法規出版)